

菊陽人 りさーち



なべしま まい
鍋島 舞さん (8歳)
[杉並台]

- 将来の夢 ケーキ屋さん
- 今がんばっていること 縄跳びの2段跳びができるようにがんばっています。
- 得意なこと 大なわとびです
- 自分を一言であらわすと 心優しい人です (友人談)

「菊陽人りさーち」に掲載を希望される方は、はがきに「氏名」「年齢」「住所」「連絡先(昼間)」を明記のうえ〒869-1192菊陽町役場総合政策課「菊陽人りさーち」係までお送りください。
注) 掲載対象は、小学生以上で菊陽町に居住している方に限ります。親子、祖父母と孫など2人1組での掲載もできます。掲載が決まりましたら、こちらよりご連絡させていただきます。



いりえ ももか
入江 桃夏さん (11歳)
[杉並台]

- 趣味 元気をもらえる音楽を聴くことです
- 将来の夢 保育士か教師
- 得意なこと そろばんです
- 今一番やりたいこと いろいろなカタチの箱を使って工作したいです
- 自分を一言であらわすと お茶目な人です (友人談)

ゆたかな心をはぐはぐくむ 人権のひろば

子どもの目、子どもの声
人権
作文シリーズ
【No.1】

人権学習の過程で綴られた菊陽町内小学生、中学生の人権作文をシリーズで紹介します。その作文には自分のくらしや家族、友だちを真摯に見つめた豊かな内容が盛り込まれています。子どもの目、子どもの心にくぐった豊かな人間の見つめ方を共有できるシリーズになれば幸いです。

くらしを見つめる勉強を
菊陽中部小学校4年1組 東 未来

私は、一学期の人権学習「くらしを見つめよう」の中で、家族からの手紙をもらって読みました。私はそれで、初めてお母さんの気持ちにふれました。
私は、(お母さんは、だれよりも私のことを分かってくれてるんだなあ。)と思いました。
私は今まで、お母さんは私のことをきらないのかな、と思っていました。お母さんが、私のことをいつもおこっけてばかりだからです。
でも、よくよく手紙を読むと、そんなことはありませんでした。私は、いつも私たちの世話をしてくれて支えてくれる、世界で一人のお母さん、そしてお父さんを大切にしたい、と思うことができました。
手紙の中には、お母さんが私の笑顔を見るだけで疲れがふつとぶ、と書いてありました。だから、私は、これからずっと笑顔でいたいんです。そのためには、自分が一番がんばらなくちゃいけないので、がんばります。
私にとって、家族は宝なので、大事にしたいです。
それから、「わたしは負けない」を使った勉強の時には、私は、主人公の「わたし」は勇気があってすごいなあ、と思いました。

自分の思いや伝えたいことを、たくさん人の前で、きちんと伝えられたからです。私は、たくさん人の前で自分の思いを言うとき、(大きな声が出るかなあ。)とか(ちゃんとわかってもらえるかなあ。)とか考えて、自信がありません。私は、「わたし」に負けないように、勇気を持ちたいです。
それと、お話の中で、「学校に来るな。」と落書きをしていた人に私は言いたいです。どうして学校に来ちゃいけないのですか。落書きなんて、心が暗いんじゃないかと思います。落書きでは、伝えたいことが伝わりません。
この勉強で、私は、自分のことをしっかりとふり返り、見つめることができました。私は、これからおかしなことを注意したりできる勇気を持つようになりたいです。そして、自分も家族もみんなも、いつも笑顔でいられるように、自分ができるところをがんばります。



そうじは楽しいね
(菊陽中部小学校)

ぼくは、一学年に、きくようじ小学校にてん校してきました。はじめは知らない人ばかりで、「友だちができるかなあ。」と少しばいしていました。でも、クラスの人たちが「あそぼう。」と声をかけてくれました。とてもうれしかったです。それから毎日、休み時間は、ゆづぐであそんだり、ポケモンごっこをしたりしてあそびました。お友だちができたら、なんかうれいしきもちがします。学校にくるのもたのしくなりました。
雨の日に、ぼくはかさをわすれてこまっています。くつばこのところに立っていると、ぼくのしらなひ一年生がきて、「かさに入ってくださいよ。」と声をくれました。うれしくて、ぼくもこのこまっています。
おなじ子がいてこまっていたら、こんどは、ぼくがやさしいことをするといいなあとおもいます。どんどんそつしたいです。やさしいことをたくさんしたり、友だちがふえたりしたらいいなとおもいました。それから、わるいことをする人がいないといいなとぼくは、そうおもっています。

「うれしかったよ」
菊陽西小学校1年1組 相方礼央奈

菊陽句会報

きくよう文芸

そろりそろり敗者退く恋の猫	坂本百合子	チューリップ一年生をまつてある	佐藤 健
あおおとクレンソ育つ流れかな	田中 郁子	師と共に詣りし墓の黄水仙	佐藤 節
秘めやかに落つるや島の耶蘇椿	村田 正三	道場の箒目清し弓始	吉野 早苗
目白来る向うから三軒両隣	井 子文	今日の日を集めて庭の黄水仙	川口 豊子
不況波部まで寄せ来春寒し	財津 早雪	土の香や春の息吹と見受けた	井上久美子
三日月や春は名のみの中天に	原野レイ子	雨あがり心ゆくまで雲雀飛べ	宮川ユキエ
卒業式校門へ急ぐ母と子と	西村ひとえ	雛の目家具さはやかに	日高 妙子
春一斉難き扇を開き去る	力 幸子	沈丁花ほぐれつ香る狭庭かな	曾我 育代
灯籠に寄り添はれつつ椿咲く	寺尾千代子	刻惜しや紅梅は地に染む狭庭	曾我トモ子
花なづなそつと回して鈴の音	高橋 孝子	戸を繰ればふわふわと沈丁花	紫藤 祥子
遠目にも椿一厘露の中	佐藤 颯	落ち椿地をくぐり来し紅さとか	村上 朋子
春の雲迷子になつてる海の上	佐藤 航		

短歌会

遠くまた近くも聞こゆ童らの楽しき声にうつらとなりぬ
少しずつ咲きはじめたサクらの花静寂な時を心と共に
ふるさとはいつも行きたい遠い道変わりゆくとも吾の子守歌
庭の木に飛び来し小鳥春雨に一瞬にして低く飛び去る
道沿いの椰子の並木は空高く風に揺れつつ日に輝けり
卒業を迎えし子等としばし見る祝福のごと花咲き満つる
山裾の神社の庭で銀杏を拾いしときより幾年ならむ
孫と見しサーカス団の素晴らしき技と光に酔いし日もあり
咲き満らしハクモクレンの大木を揺らして止まず春の嵐は

今村 貞子
上野 敬子
上野 陽子
岡本まさえ
菊川あさみ
下田 久子
皆嶋キクノ
森 敦子
柚井 玲子